

## 5. 二枚貝類等生息環境調査

43

### 〈目的〉

二枚貝類等の生息に影響を及ぼしているナルトビエイの生態等について調査することにより、二枚貝類等への影響を把握

### 〈調査期間〉

平成18年6月～平成18年11月

### 〈調査区域〉

佐賀、熊本、福岡、長崎4県の沿岸部海域

### 〈調査項目〉

- ナルトビエイの分布調査
- ・湿重量、個体数、体盤幅(定点)
- ・個体確認位置

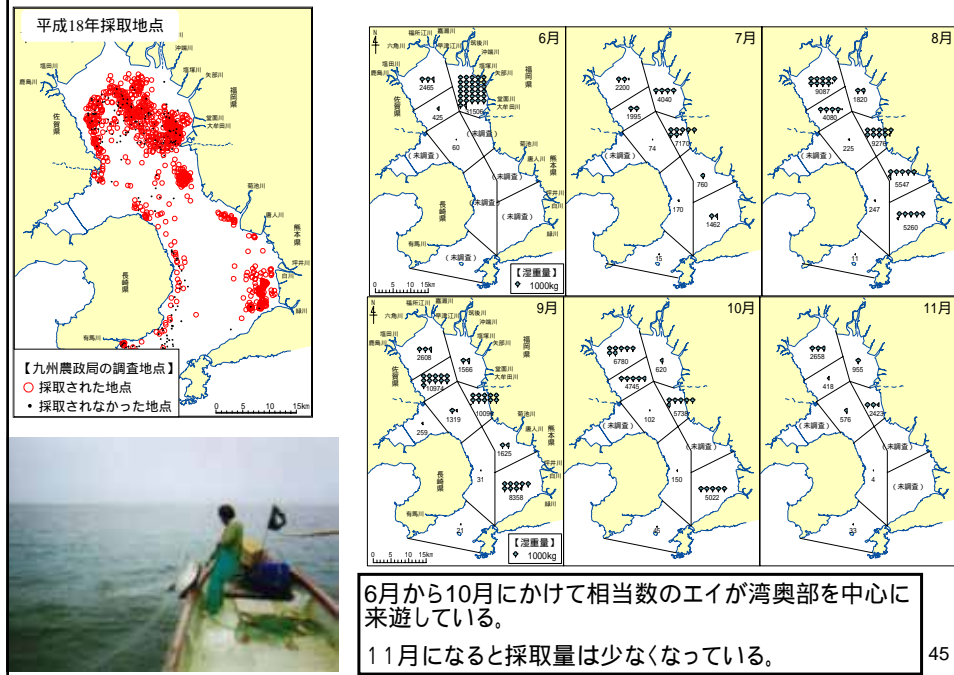
ナルトビエイの生態調査

- ・行動調査



44

## 平成18年ナルトビエイ分布調査結果(6月～11月)

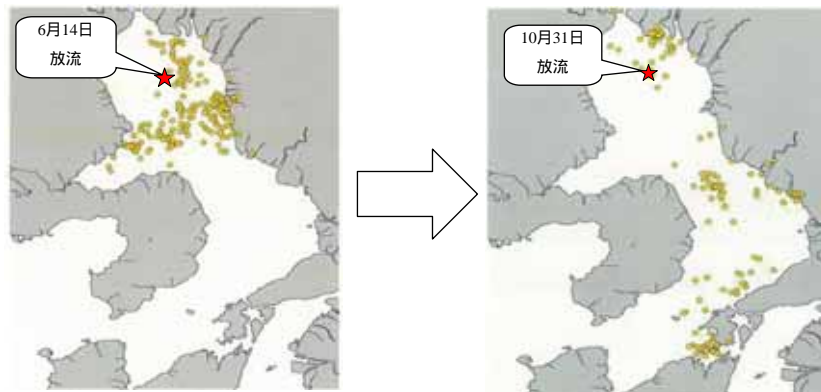


45

## 平成18年生態調査(行動調査)結果

6月14日～28日

11月1日～30日



6月の受信位置は、佐賀県側を除く湾奥部のほぼ全域で確認された。

11月になると有明海湾中央部から湾口部へと徐々に南下していた。

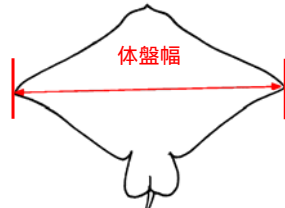
長崎大学水産学部：山口准教授による調査

46

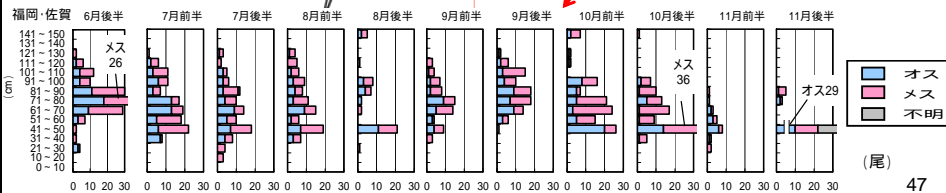
## ナルトビエイの体盤幅の測定結果

有明海奥部の4地点の体盤幅データを集計したところ、6月～10月には中・大型の個体が見られたが、11月には小型の個体のみが確認された。

6月後半、7月後半、8月後半において体盤幅30cm以下の稚魚が確認されたことから、ナルトビエイは有明海奥部で繁殖していることが示唆された。



4点分を集計



(尾) 47

### これまでの調査からわかったこと

- ・ナルトビエイは、水温が上昇する春に有明海に来遊し、その後、水温が低下すると、有明海を南下し、冬には湾外へと移動するものと考えられる。
- ・有明海奥部において稚魚が確認されたことから、ナルトビエイがこの海域で繁殖していることが示唆された。
- ・ナルトビエイは、体盤幅約40cm～100cmのものが多く確認された。

### 平成19年度の調査方針

- ・ナルトビエイの分布や生態に係る調査を継続するとともに、二枚貝類の現存量を把握し、食害による影響を推定する。

48